

●小山乃里子の

華麗なる食べある記



△45▽高級肉料理大井
△46▽スパゲッティ専門店壁の穴

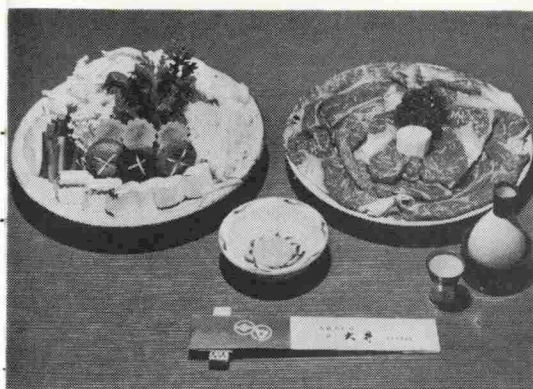
□大井

★明治4年創業。伝統と品質を誇る大井の神戸肉

うまいものの座談会で、すき焼きの話が出た。むしろにすき焼きが食べたくなった。我家では、正月のもちを焼く時と、すき焼きだけ、父がはしを持った。まず肉を焼き、その上から砂糖をまぶし、しょう油を落とし、おもむろに野菜を入れていく。かなり濃い目の味つけで、生卵につけて食べると、いつも私だけ、卵がすぐに無くなった。すき焼きはまた、学生時代のコンパの思い出でもある。女がやるものと頭から決めてかかる男共を、なだめたりすかしたり、おだて上げて煮いてもらった。いつも甘すぎたりからかったり、最後にはビールやお酒が混じり込み、とても食べられる代物ではなかった。

もう何年も、すき焼きらしきものに当たっていない。しやぶしやぶのイメージが強かった「大井」、すき焼きもあると聞いて、そりやあ肉屋さんだもんと今更ながら納得しつつ、勇んで出かけていった。明治四年の創業とい

うから、今年で百十年の歴史である。今の、立派な肉店のビルは昭和四十二年からで、以前の木造二階建ての建物は明治村にあるという。初代が建てた洋館である。そもそも、この初代のおじいちゃんが好奇心の旺盛な方で、神戸に肉をもたらしただけの最初の人ともいえるのだが、きっかけは、外国船の船員からとのこと。はしけで日用品を運んで行くと、なにやら妙なものを食べている。ぶうんといひ匂いがただよって来る。長く神戸にとどまっていると肉が無くなって来る。当時、馬はもちろん牛ものんびり歩いていた。「あれが欲しい」「へえー、あれが食べられまんのか、モーツ、びっくりしたなあ」といわれたかどうかは知らないが、そんなこんなで、そんなにおいしいものなら食べてみよう、いい味だ、なんてことで大井肉店の開業となった次第。肉を見る目は代々養われている。但馬牛の、コンクール入選牛を全部買い取ってもそのうちの二割しか使えるものがないという。かなりの損を見こしても、店の名前というか信用を守るという姿勢は、すき焼きにするにはもったいないとも思える立派な霜ふりにもあらわれる。



すき焼きの材料。肉はさすがに最高級

「すき焼きは、肉と仲居さんのウデが勝負」と話す大井社長



□壁の穴

★スパゲッティ専門店。その種類は四十七

スパゲッティ専門店「壁の穴」。大阪の店は一度のぞいたことがあるが、パルパローレ店の元町店、以前、少しの間、私の番組のスポンサーでもあったのに、まだのぞいていない。「そんなことでは困りますねえ、それでも食べ歩きを趣味とするひとですか……」。壁の穴の辣腕マネージャー、中町女史に一喝されて、へえい、と飛んで行った。

なんせスパゲッティの種類、四十七である。メニューを見て、即座にこれとこれ、といえるひとはかなりの通だと思ふ。これもいいけどあれも食べてみたい、これはどんな味がするのかなあ、なんてじつとメニューとにらめっこ、仲々決まらないから、ちよつと変つたものを選んでもらった。

これがどんぴしゃり、私の好みと合った。なんと私の大好きな納豆のスパゲッティなのです。メニュー風にいふと「あさり・しめじ・しいたけ・なつとう」というや

肉に味をつけてしまうのではなく、たれにちよいとつけて、肉本来の味を楽しむしゃぶしゃぶの方が良かったかなと思ひながら、仲居さんがたいてくれたお肉にはしをのぼす。あっさりした味付けだった。やわらかい肉の風味がこわれず口の中に広がる。ハクサイ、人参、エノキダケ、ふ、キクナ、豆腐と、おなじみの野菜も肉の味がしみ込んで、いつもと様子を变えている。

肉のさしみも食べてみたい。今度はオイル焼きにしようかな、誰を連れてこよう。次に期待と夢を持たせる味である。

すき焼き／4000円　しゃぶしゃぶ／4500円　肉さし／2000円
オイル焼／5000円

生田区元町通7　電話35111011　日曜休

そこう店／そこう10F　電話25110131　木曜休



左/たらこ・いか・うに・いくら 右/若者のアイドル

「もちろんオーダーが通ってからゆでるのですが、やはりそのゆで加減がムツカシイです」と話す魚住店長

つ。あさりとしめじ、しいたけを煮いて、なつとうは、タバスコを少し、からしも少し、しょう油を軽く落して卵の黄味のねばりを加え、ゆで上ったしこつと腰のあるスパゲッティの上にかけたもの。関西人は納豆をあまり食べないと聞くが、仲々どうして、このメニューは大人気だとか。特に、朝食の味噌汁と納豆を、コーヒートリストに変えられた中年サラリーマン諸氏は、ことのほかこれがお好きだとか。わかるわかる。これ一皿でかなりお腹はふくれたが、もう一皿、どうしても食べてみたかったのが、「たらこ・いか・うに・いくら」というやつ。なんだかお寿司屋さんみたいだが、いづれも私の大好物。無塩バターとたらこを、大きめのスプーンの上でまぜて、これも、あつあつのめんにからませる。うにもその時一緒に混ぜ、いくらの上に乗せる。いかは、塩でゆでて仲間入り。たらこの赤がほんのりしたピンクに変つて、塩かげんといい、実においしかった。

かくし味にこぶ茶を使っていると聞いてびくりしたり感心したり。そんなことをすんなり教えてくれるところも気に入った。若者のアイドルなんて面白いメニューもある。お客さんが命名したそう。ソーセージ、ベーコン、しめじ、しいたけ、ピーマン、トマトがしょう油味であえられる。七四七なんてのもあった。にんにく七、玉子四、ベーコン七の割合だからだそう。ちよつとこつてりした味を好む人には、サク、えび入りのホワイトソース、特選メニューなんてコースになっているものもある。

飲物も、楊貴妃にシャーザー、クレオパトラ。自家製ドレッシングのサラダもおいしい味。今度はおしんこというのに挑戦してみよう。

あさり・しめじ・椎茸・なつとう/1000円 たらこ・いか・うに・いくら/1450円 若者のアイドル/650円 楊貴妃・シャーザー、クレオパトラ/各200円

元町店/生田区元町通3-8バルパローレ3F 電話392-3039

第2、3水曜休

三宮店/生田区三宮町1-5 サントリーヤル10F 電話332-4551

第1、3月曜休

化粧品のというものはひとつの道具——女性を引付ける何か秘密の力を持っている様に見える道具です。美しい容器、パッケージ、パンフレット、考えぬかれたその名前、そして高価なことにまで、そんな秘密の力が潜んでいるようです。でも、本当はどうでしょう。貴女が朝晩時間をかけてお化粧をし、ふんだんにクリームや乳液を与えるお顔の皮膚と胸のあたりのお肌を比べて下さい。賢明な貴女にはもうおわかりでしょう。

美しい肌とは、潤いがあり、滑らかで、張りがあり、弾力があり、血行が良い——これらの条件を満たす生き生きしたお肌です。生まれした時から、しみや肌荒れの赤ちゃんとはいないはず。なのに、どうしてニキビやしみが気になってくるのでしょうか。

自然派講座 I 自然化粧品の話

ナチュラルレター (2)



Natural House

ナチュラルハウス 神戸店

元町 1番街 078(392) 3661
年中無休・10AM～7PM



シンプルなデザインの自然化粧品

内因的な理由(精神的疲労、内臓疾患)もちろんありますが、外因的な理由によることも多いのです。そのひとつに私達が毎日使っている化粧品が挙げられます。化粧品は主に水分と油脂分からなっています。でも御存知の様に水と油はそのままだと混ざり合いません。そこでこれらを混ぜ合わせる薬品や香りを持たせる香料、長くその状態を保たせるための保存料などが必要なのですが、それらは殆どが石油から合成されたもので作られているのです。石油からなら気候や風土によって収獲が左右される植物からと異なり計画的に生産できる上原価も安く、化学的に純粋で良い香りを持つものが作り出せます。ところが元来、人体の機能では分解しきれない鉱物油について、最近色々な問題点が懸念される様になってきました。例えば「女子顔面黒皮症」という皮膚障害があります。顔の皮膚に紫褐色の沈着が起こるもので、第

例えば、日本では昔から使われている椿油、へちま、きゅうりなどの植物を主原料としたリマ化粧品。欧米の貴婦人の間で密かに愛用されたといわれるアボカドの果実を主原料につくられたアボカド化粧品。また、化粧品の被害を防ぐため、イギリスの消費者団体の手で生み出された純植物性のサンダーズベリ化粧品。このようにできる限り安全な化粧品を取り揃えました。私達は本当の健康なお肌について皆様と語り合いたいと思っています。(化粧品売場担当・尾立明子)

そこで、ナチュラルハウスでは本当の意味で化粧品とは何かを考えてゆきたいと思っています。できながざり自然の原料を用い、お肌にやさしい化粧品を——

例えば、日本では昔から使われている椿油、へちま、きゅうりなどの植物を主原料としたリマ化粧品。欧米の貴婦人の間で密かに愛用されたといわれるアボカドの果実を主原料につくられたアボカド化粧品。また、化粧品の被害を防ぐため、イギリスの消費者団体の手で生み出された純植物性のサンダーズベリ化粧品。このようにできる限り安全な化粧品を取り揃えました。私達は本当の健康なお肌について皆様と語り合いたいと思っています。(化粧品売場担当・尾立明子)



売場担当の尾立・大東

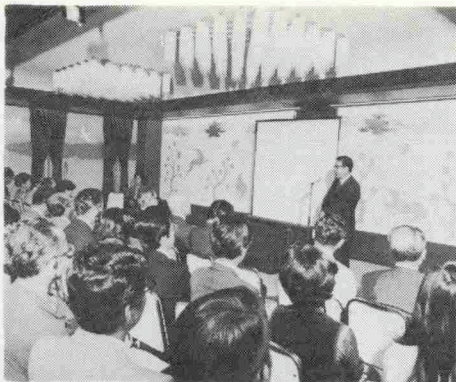
一次、二次の大戦中は特に頻繁に、しかも女子だけに見られたため、別名を戦争黒皮症とも呼ばれています。原因は、栄養不足の状態の肌に戦時中の粗悪な油から造られた化粧品を使用したためとされていますが、こういった症状を訴える人が、近ごろまた、よく見られるようになってきたのです。経済状態も安定し、戦時中とは比較にならないほど技術面でも向上した現在なのに——。

話題のひろば

<I>

●初出版記念パーティ開く

“いぶし銀の古都”の 新谷英子さんを囲んで



上左は英子さんと父母の新谷英夫夫妻、上右は安好教育長のスピーチ、下左と下右は新谷英子さんを囲んで。

九月十二日。さんちかタウンの十五周年記念に、神戸の女流彫刻家新谷英子さんは青銅とガラスの出会いによる“アラベスク”を完成。その大胆な発想は透明なガラス作品の神秘さに魅せられた憧憬からのひらめきにあった。

さて、九月三十日。約一五〇人の人々が集まり、生田神社会館で『新谷英子“いぶし銀の古都”初出版を祝う会』が開かれた。

一九七七年神戸市文化奨励賞を受けた英子さんが、街と人と風景の中の“ガラスとの出会い”を求めてドイツ、オーストリア、チェコ、イタリア、北欧などを十一月にわたって旅した写真と文の記録。

当夜は、発起人代表の横崎四郎美術館長と、安好匠教育長、行吉哉女神戸女子短期大学長らのスピーチの後、サンTVの村上和子さんのインタビュをはさみながら、“いぶし銀の古都”のスライドとおしゃべりがたっぷりと神楽殿で披露された。伊藤ルミさんの弾くワルツで始まる祝宴に、土井芳子さんの乾杯の音頭取りで“チェリオ”。松本幸三さんのカンツォーネに田淵幸三さんのピアノ伴奏で“ブラボー”。向田俊博さんの“英子さんに捧げるバラード”のギター演奏など優雅な夕べだった。

・六甲山100コース

〈その49〉

神鉄有馬口―蓬山峡―湯槽谷峠―有馬温泉

蓬山峡 清流ライン

佐野 弘利 〈洋画家・二紀会同人〉



猪の鼻小橋にて筆者

ここ数年、蓬山峡へ年二・三回、家族づれや私の所で絵を習う子供達をつれて飯盒炊さんにつれていく。自然に恵まれない今の子供達は大変な喜びようで、沢蟹を取ったり、蛙を追いまわしたり、水着になって七十センチ程の深みで泳いだりしている。日曜などは他の家族づれが竿を出して小さなハエやモロコを釣り上げている。子供達の中には絵を描くのはきらいだが、毎年蓬山峡にくるのが楽しみで長年おけいこにくる生徒もある。

そんなわけで今回も最も馴みのある蓬山峡を選んだ。

神戸っ子編集長のお兄さんの小泉正巳さん、私の兄と三人で出掛けた。兄は若い頃から三十年近く高取山へ早朝登山し、一万回に達しようとする。酒もタバコもやらない堅物の山男である。午前十時、有馬口から出発。西に唐櫃台、東に有野台とベッドタウンがありながら、ここ有馬口付近は全くの田舎風景である。白壁の土蔵、藁葺の

屋根があり心が和む。田圃の中に樹齢百年もあろうかと思われるこんもり茂った下に山王神社があり、境内にはいてみる。よく手入れがいきとどき清流の小川で手を洗う口をすすぐのであろう。そこからすぐ大きく川の音が聞こえてくる頃になると両側に山がせまり、溪谷になっていく。街中は残暑だったが、溪谷をぬって吹く風は冷たく、こちよい秋風である。都心から一時間で緑とせせらぎと秋風にふれられるのは私共神戸っ子の特権のように思える。休日はキャンプやハイキングで多数通るこの道も平日とあって誰一人出会わない。やがて右手に水道局の建物があり、山の中腹に鍋谷の滝のぞまれ雄大だ。川は左にカーブし猪鼻橋を渡り間もなく、テント村に着く。赤や黄色のテントが点在し、敷地も広く、パドミントンやソフトボールでも楽しめそうだ。夏休みは賑やかだったであろうが、今日は誰もいない。砂煙まじりの秋風が吹く。このあたりに立札があり「松茸山につき入山厳禁す」とある。そういうばこのあたりは赤松ばかりの林である。

テント村から少し登った小川が交差した所で飯盒炊さんをするにした。氷水のように冷たい。飯盒のめしの味はハイキングのよさを全部集中した喜びがある。それから峠に向かって急な登りになり、道はぐつと狭くなる。険しい登りはわずかで、いたるところ泉が湧き源流になる泉がなくなる頃、もう湯槽谷峠に達する。狭い登山路の交差点になっている。東に六甲最高峰が望まれ



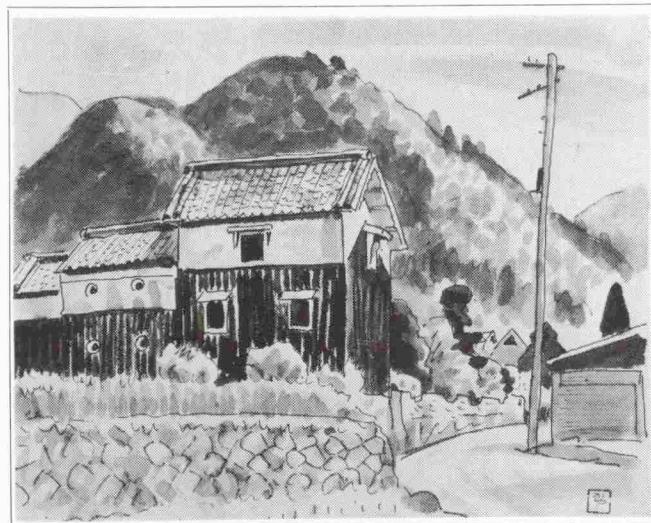
テント村のあたりで飯盒炊さんの準備に忙しい佐野さん兄弟

る。小休止すると一気に紅葉谷に向かつてうす暗い灌木の林を下る。また、このあたりから泉が湧き、大谷から有馬川をつくっている。視界が急に明るくなり白い大きなダムが目に入る。川に沿ってロープウエーの下を有馬へと歩く。ここで温泉につかり疲れをいやし、汗を流す。後でのビール一ぱいは最高にうまい。何か大きな事をなしとげたような満足感を覚える。

夏から秋にかけて、どの絵かきもそうであろうが、連日大作に取り組み、頭も心身共ずっしりと重くなっていたが久し振りのハイキングは爽快だった。蓬山峡は地元の人話によると、もう阪神地区には、これだけ水質のよい川はないだろうとのこと。いたるところ泉が湧き、私はここを清流ラインと名付けた。有馬口からの約九キロは小学生以上なら誰でも楽しめるコースである。



有馬口付近 絵・佐野弘利



・六甲山100コース

地蔵谷の椿

桜井 利枝〈作家〉

△その50▽
摩耶ケーブル下駅―奥摩耶ロープウェイ山上駅―地蔵谷―市ガ原―布引貯水池―新神戸駅



地蔵谷道にて筆者

摩耶山上のレストハウスで早い目の昼食をすませ、天
上寺に詣でてから地蔵谷を下る道に向かった。天上寺の
裏道を行く途中のそここに赤いよだれかけをしたお地
蔵さんを見かけたので、愚かにもその道を地蔵谷と感違
いして、同行して下さったS氏の苦笑をかった。因に、
地蔵谷には一体のお地藏さんも見られなかったのである
谷はまずあるかなきかのか細い流れからはじまった。
それは流れというには余りにも幼なすぎ、せせらぎより
も稚さい。チロチロチロチロと岩の間を伝ってゆく水で
ある。うっかりしていると思えそうになるが、下るに
したがって他の同じような稚さい流れと出会いながら少
しづつ量と速さを加えてゆく。

「あっ 沢蟹」

先に歩いていったS氏の声にあわてて駆け下りると、朱
い甲羅の小さな蟹が、濡れた岩の上をすべるように這っ

ていた。沢蟹の色は茶褐色ときままっているように思っ
ていたのだが、紅葉しはじめた楓の葉のような甲羅の色で
あった。そんなことを話しているうちに、もう蟹の姿は
見えない。雲がくれならぬ岩がくれをしたのである。

萩の花が咲きはじめ芒の穂も開いて、風は初秋らしい
涼味をはらんでいるのに、歩いているとさすがに汗が滴
る。足弱の私のために特に下りのコースを選んでいただ
いたのだが、急斜面が足もとから遙か下の方の谷に落ち
ている細い道になると、なかなかどうしてスリリングで
ある。それでよけいに汗が流れる。細目のスラックスが
じつとりと脚に密着して歩きにくい。S氏が屢々立ち止
まって待って下さる。

谷に入ってからには誰にも出会わなかった。樹間からの
日差しと、だんだん勢を増してゆく流れの音だけが随
いてくる。否、私たちがその水音を追って行くのである。
漸く谷川らしい流れになった処の岩に腰をかけて、オ
レンジを食べながら休憩することにした。

水を掬うとやはり冷んやりしている。透き通っている
水を掬うのは、いったい何年ぶりだろうかと思う。何十
年ぶりという直した方がいいだろうか。農村ではまだ藁
葺き屋根の家が多く、どこか庭先でも鶏を飼っていた時
代である。村の中の小川の流れに、小芋の皮をむく木製
の籠が掛けてあり、それが水車のようにクルクルクルク
ルと廻っていた。あの頃の水は澄んでいて当然だった。
そんなことをふと思ひ出したが、都会育ちらしい若いS



地藏谷道は下につれて溪流の水量音も増し、水音が心を和ませてくれる

氏に話すのは憚られ

「きれいな水ですね」

という在り来りな言葉しか出てこない。

「でも、この水は少し油分を含んでいるみたいですよ」とS氏。

私はびっくりして水面を凝視するが、アブラらしいものは認められない。

「岩の色が変でしょう」とおっしゃる。

そう言われてみれば、水がよく当る岩肌は赤紫に近い色をしている。これはどういうことなのか。まさか地下のどこかに、石油の湧く鉱床があるわけでもないだろう

が、私はつい

「もしそうだとしたら、掘り当てたら大儲けできますね」と言って笑われた。

頻りにつくつく法師の声をする。それに時々みんな蟬の抑圧的な鳴声が交わる。里ではそろそろコウロギの声が聞こえるというのに、山中にはまだ夏の大きが貯えられているらしい。密生した大樹の枝と枝、葉と葉の大きな重なりの中に、夏はまだ生きながらえているのだろう。山の中は冷んやりするだろうと思つて上衣を持ってきたのは、全く当を得ていなかったことになる。

「この辺は樺の木が多いということですよ」

と教えられ、足もとばかりに気をとられていた目を上げると、なるほど濃緑色の艶やかな葉をつけた樺の木枝が頭上に延びている。藪椿らしい。幹の色が灰白色がかっている、他の樹木との区別がつきやすい。相当な数である。

樺は早春の花であるが、山ではいつ頃が見頃なのだろう。樺にもいろいろの品種があるようだが、私は真紅の藪椿が好きである。

これだけ多くの木にまっ赤な花が咲けば、さぞ見事なことだろう。ぜひ見に来たいものである。花の落ちはじめの頃がよい。その時は今日とは逆に市ガ原から遡行して、流れる花を眺めながら歩くことにしよう。



スーパのさめない町づくりを

橋本 明／社団法人「家庭義護促進協会」事務局長▽

神戸市長田区の荻藻地区、といえば今や生活環境改善のための住民運動のモデルとして全国にその名を知られるようにまでなっている。

かつてこの地区には、ゴム・木材・油脂・金属・マツチ・プレスなど二六〇社にのぼる中小の工場や倉庫がひしめきあい、ばい煙、騒音、悪臭、大気汚染、排ガス、工場廃液のたれ流しなどさまざまな公害が集中し、「公害のデパート」のような様相を呈し、住民の四割が「かえるもゼンソク」に苦しみ、住民の生活と健康はおびやかされていた。

このままでは住民が安心して住めなくなる、という危機意識から住民自らが立ち上がってまず公害の実態調査を手はじめに、公害追放、空間土地の確保、緑化推進、福祉運動など次々と住民が中心となつて新しい町づくりのための運動を手がけてきた。昭和40年から始まったこの町の運動は次第に輪を広げ、着実に住民の中に定着していった。この15年間の住民運動のなかで常に住民が気を配ってきたのは、子ども、老人、障害者などの弱い立場にある仲間に関心をあてることだ」と、この運動を中心になつて推進してきた毛利芳蔵さん(71)はいう。

この地域には三世代同居世帯や老人が多い。真野校区の人口八二一〇

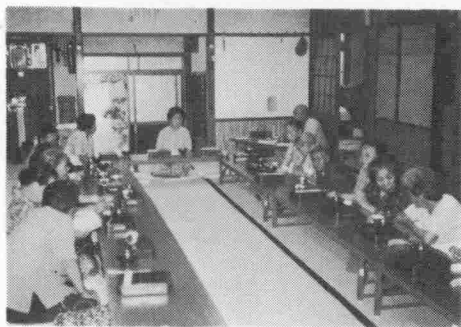
人のうち、65歳以上の老人七八六、そのうちのひとり暮らし老人一二九人、寝たきり老人二三人である。この地区では今年の春からひとり暮らし老人を対象に「給食サービス」を実施しており、このサービスも長い町づくり運動を背景として生まれてきたものであった。

小雨降る九月の終わりに、私は尻池南部公会堂を訪れてみた。毎月第一、第三土曜日に実施されている給食サービスを見せていただくためだった。

午前十一時半頃公会堂に入ると、本日の給食23人分がすでに委託されている給食会社から届けられていた。民生委員やボランティアの主婦がテーブルを並べて準備をしていると、お年寄りが次々と集まって席に着く。私もいっしょに給食をこちそうになった。まず、フタをあけて色とりどりの豪華なメニューにビックリ。そしてこれがわずか三〇〇円と聞いて二度ビックリした。老人の負担は一〇〇円で、残りは尻池南部自治連合協議会から補助がでる。

「やっぱりうけで食べるとおいしいなあ」「ごはんが多いなあ」という満足そうな、嬉しそうな声が聞こえてくる。「困ったことがあったら何でも民生委員に言うてや」と毛利さんが老人たちに声をかける。

「あの人は垂水へ行ってるから今日は来られへんのや」と不在の老人の



給食サービスを楽しむひとり暮らしの老人たち

消息をみながよく知っている。

「今日はあのおじいちゃん来てないなあ。どないしたんやろ」と一人の老人が立ち上がって、電話をかけにいく。「今日、給食やいうこと忘れとった！」といってみんなの食事が終わった頃、やってくる人もいる。

給食サービスのネライはひとり暮らし老人の健康を守るということにあるのはもちろんだが、二週間に一度でもみんなが顔を合わせ、雑談に花を咲かせて交流を深め、老人の孤立化を防ぐというところにある。この地区では、八六人のボランティアが友愛訪問をして老人の話し相手となり、地域ぐるみで老人を見守っている。

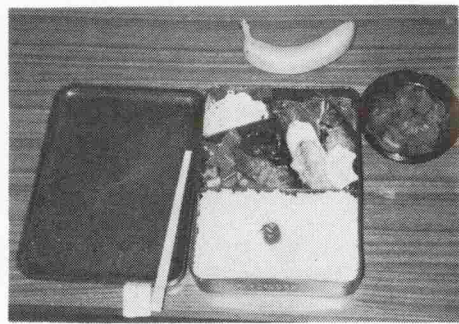
またこの地区では寝たきり老人の入浴サービスも行っている。二年前に開いた町づくり学校「保健医療教室」のなかで、寝たきり老人をかかえている家族から「入浴させてやりたい」という声が出た。住民の声にこたえるため、全住民にカンパを呼びかけたところ10日間ほどで31万5千円も集まり、早速折りたたみ式ポータブル浴槽などを購入し、医師、民生委員、主婦ボランティアなどの協力で巡回して入浴サービスが実施できるようになった。「ここは下町ですから昔からみんな気こころのわかった人ばかりなんです。入浴でも全然知らん人が手伝うと緊張しますが、顔なじみだと老人も安心できる



尻池南部公会堂



食後、老人の話を傾ける毛利芳蔵さん（左）



一食300円の給食

し、無理も言えるんですよ」と毛利さんは下町の良さを話してくれた。さて、給食が終わると時々ボランティアが演芸を披露して老人を楽しませてくれたり、保健婦さんが食事の指導や体操を教えてくれたりして健康面にも気を配ってくれるので有難い。

食後、一人の老人が毛利さんに話しかけた。

「老人ホームへ入ったら古いボスがいて、新米をいじめるねん。グズグズしとたらどつきよるねん。」毛利さんは老人の一言一言にうなづいてじっくりと耳を傾ける。

住民自らの努力によって町の環境は少しずつ良くなってきたが、まだまだ問題は山積みしている。おりからこの地区はこのほど建設省が進めている「地区計画制度」のモデル地区にも指定され、住民からも大きな期待がよせられている。

「“こんなん炊いたんや。食べてみて”と隣りへかけ込む嫁の姿がこの町にはある。“スープのさめない町づくり”それは私たちの“ふるさと”であり、そこにこそ、孫から老人までの生活の場がある」と書きつづった毛利さんの胸の中には、この町で半世紀以上を暮らし、この町を愛しつづけてきた、さまざまないいがこめられており、未来への大きな夢が感じられた。

FASHION

●TOKYOファッションメニュー

女の感性が生きる時

秦砂丘子さんにきく

風の吹く屋上に
さまざまな人達が集って来てく
れました。

よく見れば、貴婦人ふう、うら
ぶれ流人、

風の人、異星人、車型人間と、
まあ、ばらばらととりとめもあ
りません。

勿論、皆様方も御招待申しあげ
た客の一員。

ごちそうは、青い星と風の音と
それに高速道路を行く光の点滅
ぐらいますが、どうぞ、一緒に
METAMO-METAL 屋上 ME
NEW を味わってみて下さる



ショーの合い間に秦砂丘子さん

ー ションも、分量も程よく、はたまた、冷
い料理、暖かい料理と、美酒を味わいなが
らのディナーは、アンドロメダ星雲の星の
人になった気分、酔い心地も満点であり
ました。特にそのメニューのなかからお気
に入りを紹介いたします。

食前酒ー透明空気蒸溜酒、レジタルパン
チ、東京25時海の花カクテル。オードブル
ー特に大傑作はフレッシュ・シェフエブ向
け録音回路付、Prosciutto マンハッタン
風明け方ソース。魚料理ーシェイブアップ
ジョギング済の鮭マヨネーズ合え甘い殺気
入り舌平目のクリーム煮、白い稲妻、シル
ビア仕上りなど。肉料理ー野兎のカリスマ
流ブロイルド、シェフオリジナル飛ぶのが
嫌い風うずら。サラダーとてもクールで

ニットデザイナーの秦砂丘子さんから屋上ディナーの
ご招待を受けたのは9月3日、東京青山の HANAE-
MORIビルでの80 SUNAKO HATA COLLECTION
での出来事。神戸のくいしん坊としては黙って見過せ
ず、デリカテッセンのサーモンをおみやげに、天高の秋
の一日をファッションメニューに舌鼓を打ったのであり
ます。

秦砂丘子さんという「超感度女性」の献立て「メタ
ル・ディナー」のフルコースは、素材も、色のコンビネ

Snow Salad 一滴の光ふう。チューニング・トリフ黒固
め、スライسدピメント東京ジャンヌスタイル。ぱつと
カラフルなデザートーホームメイドはレモン・インフレ
圈産、ラズベリーアイスタ舎飛行士型盛付け、ストロボ
リー不死鳥スタイル、低血圧向き無重力シャーベット。
そして食後酒は、シェフお気に入りのコニヤックが。
New Wave Napoleon, Aramagrac 3LDK, Monoma-
niac K.D.D., Brandate 365 など美酒珍酒の深い味わ
いのうちに屋上ディナーのエピローグを迎えたのです。



★ ★ ★

デザイナーが終った後、ショッキングピンクのTシャツにサングラスの秦砂丘子シエフにインタビュ。

——メタモ・メニューというファッションショーの“たべもの”がテーマになるという発想のきっかけは？

「私自身“たべること”に非常に興味を持っているのですが実は去年、私の料理をつくってくれていた人がいなくなりましてね、自分で料理をつくるハメになったちゃったわけです。そのつくる努力がショーになつてしまった（笑）

実際、仕事が忙しいと、現実では美味しいものをつくれないう、そんなウップンが沈黙して、ならば“たべもの”は人間の原点だから今年はこれで行こうと（笑）

——さすが色の魔術師、カラー構成がステキですね——

「黒から白、メタルな色、デ---

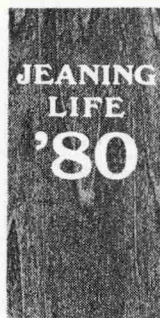


長沢節さんと大内順子さん

フそして明るく冴えた色からまたディープな黒へとショーの全体から考えて運んでいます。とにかく“たいくつ”は困りますからあきないショーにするために、傑作にアホな部分や、ずっこけたところもいれて。お酒の色づかいがデザイナーの酒徒番付で女性の“大関”になったせいか、やりやすかったです」と。

どこか女のダンディズムを感じる秦砂丘子さんの、都会的な感性にあふれたニットショーだった。ごちそうさま。

さて、その夜、大内順子さんの“パリ市のメダル受賞を祝う会”が東京会館で開かれた。ファッションジャーナリストとしてお茶の間のテレビにパリコレやニューヨークのショーを持ち込んだ企画力と普及力は大了なもの。おめでどう！。〈小泉記〉



< 3 >

ジーンズと

ウエスタンブーツ

中村 武志 ● 谷山 美沙子

「ウエスタンファッションが大好きな神戸のカウボーイ」

「ジョイント3F「フット・ウエア」コーナー」



ジョイント3F・Foot Wear コーナーにはありとあらゆるウエスタンブーツが並んでいます。

●シテイウエスタンの風が吹く

中村 僕はウエスタンファッションの大ファン。今話題の映画、あのトラボルタ主演の「アーバン・カウボーイ」の影響もあってウエスタンブーツが大流行だっけね。谷山 西部のカウボーイが愛用していたブーツだから、普通のブーツに比べてトウがとがってる。これはあぶみに足が入りやすいように。そしてかかとが斜めにカット（キューバン・ヒールという）さされているのはあぶみを踏みはずさないため。丈が長いのは小枝や小石が入らないように、と考えて作られていてとても機能的なのよ。中村 ブーツカットのジーンズにはやっぱりウエスタンブーツがピッタリだ。我らアーバン（都念）・カウボーイとしてはさりげなくそして格好よく履いて街を歩きたいと思うんだけど選ぶとき、どんなことに気を付けたらいいのかな？谷山 まず、少し小さめのサイズを選ぶこと。その次にデザイン。やや窮屈な感じのブーツを履き慣らして自分の足にピタツとなじませる、これぞウエスタンブーツの醍醐味じゃないかしら。中村 ジョイント3Fにあるこの「フット・ウエアコーナー」にはウエスタンブーツが多種多様に品数豊富にそろっていて驚いた。デ

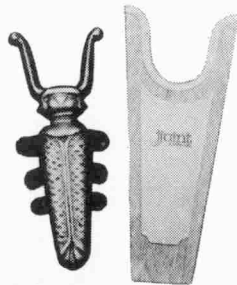


パッチリとウエスタンファッションできめた中村武志くん。(中)「トニー・ラマ」のブーツがにくいですね。
左端は3Fアシスタントマネージャーの香山薫さん。右端が谷山美沙子さん。(フット・ウェアコーナーにて)

谷山 本当のカウボーイたちの間でも人気の高い、テキサス生まれの「トニー・ラマ」をはじめ、「デュランゴ」、「ジャスティン」、「アクメ」、「ダン・ポスト」、「ノコナ」など伝統のあるブランドが一堂に揃っている。最近レディースも人気が増えてきたようね。

中村 丈夫だし手入れが良ければ何十年も履けるから、やっぱり本格的でいいものを選びたい。オールシーズンOKというのもいいよ

デザインはブレンなものからデコラティブなもの、素材もトカゲ、ヘビ、ゾウ、海ガメ、オーストリッチ、ワニなどがトウの部分に使われていたりしてまったく西部にやってきたみたいだな(笑)



●ブーツジャック
ウエスタンブーツを脱ぐときに使う。左は鉄製、右は木製。



☎ 078・321・2046 AM10→PM7 水曜休

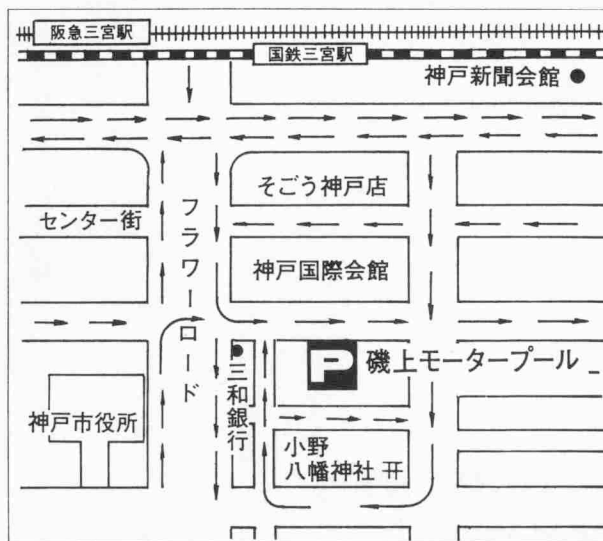


ビジネスに、ショッピングに

三宮で一番便利な

自走式立体モータープールです

- 収容台数 300台
 - 月 極 駐 車 可
 - 年 中 無 休
- (8:00AM~11:00PM)



磯上モータープール (神戸国際会館前) TEL (078) 251-7873

★KFS秋のファッション公開講座

ロマンとカジュアル

立亀長三さんの'81 春夏の傾向

コウベ・ファッションフェア参加の公開講座、春に引き続いて立亀長三さんを講師にお招きして来春夏のファッションの傾向をお話していただきました。

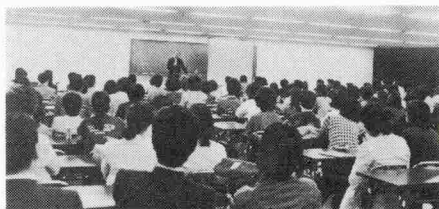
カジュアルとロマンティックを二本柱に、キルティングやポッシュ（ポシェットのこと。フランス語ではこういうことであります）そして片やフリルにフィット&フレアーのライン。タータンチェックがこの秋ヨーロッパのどの街にも見られたということも、かつてないほどのことだったそうです。ズボンは圧倒的にバギースタイル。日本でももう既にそうですが、ベルボトムは全く見られない。流行は早く回転するものダナ——と感慨。そしてスカートも形としては「長方形」がベースになるシルエットで、ローウエストとハイウエスト。とまあ、50年代を思わせるフリル等のロマンティックを加えた「エレジー」ファッションが主流のようです。

さてお楽しみのスライド。ヨーロッパの街角のディスプレイや、展示会の写真の数々。

実際のファッションがわかるので、これは毎回とても好評なのです。

フランス、イタリア、ドイツ、イギリスのどの町も、タータンチェックとアップリケとキルティング。アップリケというのは、秋のパリ・コレクションでとても素晴らしかった山本寛斎のイミテーションだそうです。ユーモラスなポップ。ユーモアが、今時代になっています。ブラックであれホワイトであれ、人を揶揄する潤滑油。楽しいファッションはいいですよね。

というわけで来年の流行の作り方を学びました。今回はいつもより多勢の受講者。チケットを売って下さった会員の皆様、ご協力ありがとうございました。



満員の受講生たち。流行を創ることなのでみんな熱心に聞いています。いまや神戸ファッションの流れを指導する（大げさかな）講座です。



熱弁立亀講師

＜会員ニュース＞

★新会員のご紹介

森都喜夫さん＜森商店＞

清谷さんのお友だちで、立亀さんの公開講座はいつも参加していましたとおっしゃる森さんは、長田でケミカルの素材を扱っておられます。これからのマンスリーサロンが楽しみですとのこと。三人のお子さんのパパです



森都喜夫さん

新入会員を歓迎中——KFSの新会員を募集中です。ファッションに興味のある方、大歓迎。

★浦野さんがショウを開きます

11月15日（土）2時～ 6時～

場所／神戸外国倶楽部 チケット／2000円

ニットデザイナーの浦野敏彦さんが久しぶりでファッションショーをします。乞ご期待。

連絡先／アトリエCR ☎252-0303

★連絡係さんが変わりました

マンスリーサロンや講演会の案内発送は渡辺三船さん＜レディス渡辺＞と崔雅琴さん＜コースン＞にお願いすることになりました。出欠の連絡住所変更などはすみやかにご連絡をご協力下さいね。渡辺☎331-1650 崔☎391-1228

★中央区になります

12月から生田区、葺合区が中央区に変更。事務局は中央区東町113-1 月刊「神戸っ子」

Christmas Party '80

12月20日（土）6：00PMより

場所／風月堂地下ホール

会費／6,000円

お楽しみクリスマスパーティの季節になりました。今年は趣向を変えて風月堂ホールを会場に、プレポートピアと題して楽しみたいもファッションナブルな人たちの集まりとして、かなり有名になったKFSのパーティ、お洒落してどうぞ！



恒例ファッションショーも開催